

様式第二号の八（第八条の四の五関係）

（第1面）

産業廃棄物処理計画書

2022 年 5 月 27 日

静岡県 知事

川勝 平太 殿

提出者

住 所 静岡県富士市大淵131-5

氏 名 株式会社ホソヤ解工

代表取締役 細谷 肇

電話番号 1545-35-1511

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

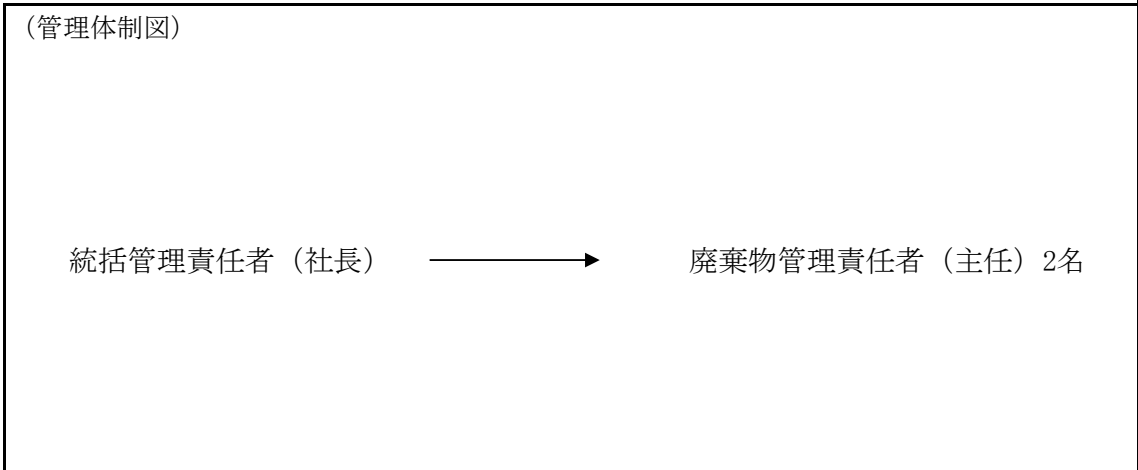
事業場の名称	株式会社ホソヤ解工
事業場の所在地	静岡県富士市大淵131-5
計画期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日

当該事業場において現に行っている事業に関する事項

① 事業の種類	解体工事業
② 事業の規模	元請完成工事高 22,261千円
③ 従業員数	11名
④ 産業廃棄物の一連の処理の工程	<p>解体現場 → 自社運 → 中間処理施設 → 再生                      売却（再生） → 再生                      最終処分 → 最終処分</p>

（日本産業規格 A列4番）

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項



産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度（令和 3 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙1-1のとおり	
	排出量	別紙1-1のとおり t	3,212 t
	(これまでに実施した取組)		
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 工事現場での分別の徹底</li><li>・ 廃プラ、木くず、金属くず等再生処理委託をする</li></ul>			
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別紙1-1のとおり	
	排出量	別紙1-1のとおり t	3,000 t
	(今後実施する予定の取組)		
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 工事現場において、種類ごとの分別を徹底することで、廃棄物の減量化を図る</li></ul>			

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 工事現場で分別解体し、再生処理業者に委託再資源化
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 引き続き工事現場での分別解体を徹底し、再資源化率を高める

## 自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

①現状	【前年度（令和 3年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		

## 自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

①現状	【前年度（令和 3年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	t	t
(これまでに実施した取組)			
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	t	t
(今後実施する予定の取組)			

## (第4面)

## 自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

①現状	【前年度（令和 3年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		

## 産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状	【前年度（令和 3年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙1-2のとおり	
	全処理委託量	3,212 t	t
	優良認定処理業者への処理委託量	370 t	t
	再生利用業者への処理委託量	2,842 t	t
	認定熱回収業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t
	(これまでに実施した取組)		

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別紙1-2のとおり	
	全処理委託量	3,000	t
	優良認定処理業者への 処理委託量	435	t
	再生利用業者への 処理委託量	2,565	t
	認定熱回収業者への 処理委託量		t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量		t
	(今後実施する予定の取組)		
※事務処理欄			

(第6面)

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
  - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
  - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
  - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

別紙 1-1

		前年度(3年)実績	
		廃棄物の種類	排出量
現 状	①	がれき類	1982t
		ガラス・陶磁器	51t
		廃プラスチック	
		木くず	703t
		繊維くず	134t
		廃石膏ボード	56t
		混合	96t
		石綿含有産廃	190t
		合計	3212t

		本年度(4年)目標	
		廃棄物の種類	排出量
目 標	②	がれき類	1870t
		ガラス・陶磁器	50t
		廃プラスチック	
		木くず	650t
		繊維くず	120t
		廃石膏ボード	50t
		混合	90t
		石綿含有産廃	170t
		合計	3000t

別紙 1-2

		前年度(3年)実績			
		廃棄物の種類	全処理 委託量	優良認定 業者	再利用 業者
現 状	①	がれき類	1982t		1982t
		ガラス・陶磁器	51t	51t	
		廃プラスチック			
		木くず	703t	58t	645t
		繊維くず	134t	134t	
		廃石膏ボード	56t	40t	16t
		混合	96t	87t	9t
		石綿含有産廃	190t		190t
		合計	3212t	370t	2842t

		本年度(4年)目標			
		廃棄物の種類	全処理 委託量	優良認定 業者	再利用 業者
目 標	②	がれき類	1870t	70t	1800t
		ガラス・陶磁器	50t	50t	
		廃プラスチック			
		木くず	650t	60t	590t
		繊維くず	120t	120t	
		廃石膏ボード	50t	45t	5t
		混合	90t	90t	
		石綿含有産廃	170t		170t
		合計	3000t	435t	2565t